

週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月11日(土)

《上手に捨てましょう -信仰の道をふさわしく歩むために-》

今日の福音(マタイ 10・7 - 13)を読んで、皆様がどのような気持ちになったのかは分かりませんが、二つのことが考えられると思います。

一つは、このイエス様の言葉の中に隠れているメッセージです。それは、ただ一つです。「委ねなさい」というメッセージです。イエス様は、「あなたが本当に神様のために何かを投げ出すのならば、後のことは全部神様がしてくださるから、いろいろな心配からは解放されなさい。全部満たしてくださるのが御父の心なのです。」とおっしゃっているのです。

『信仰』は、いろいろな言葉で言い表されますが、その中の一つが、「神様に委ねる心」です。ですから、信仰があるかどうかは、「その人がどんな時にも神様に委ねているかどうか」で見分けられます。どんな時にも神様に委ねていれば、その人は信仰深い人だとすぐに分かります。頭ばかり使って、心配しながら、焦りながら、いろいろなことで迷い込んでいる人を見たら、その人がどんな立場の人であっても、信仰がないと考えなければなりません。自分と少し考えの違う人がいても、自分の力で相手を正しく導こうとしないで、その人のことは神様が何とかしてくださるのだらう、と委ねる心が私たちには何よりも必要なのです。それを心に刻んでください。『委ねる心』が、信仰があるかどうかを識別する一つの方法なのです。

二つ目です。今日の福音に書かれている内容を文字どおりに解釈してみましよう。「神様のことを述べ伝えるためにどこかへ出かける時には、何も持たないように。杖さえ持つてはいけない。」とおっしゃっていますね。しかし、それは文字どおりに受け取らなくてもよいと思います。今が食事前ならば、「夕食には何を食べようか」と心配するのは当たり前のことです。そうではなくて、この福音は「人間的な欲望がある限り、私たちは何も捨てることができない。」と言っているのです。

聖堂でミサに与っている人を見ますと、お年寄りと女性が多いです。そこには理由があります。自分の力で何とかできる自信のある人は、他のものを頼りません。自分の力で何とかしようとしています。それは欲望とつながっているのです。

なぜ男性より女性に信仰者が多いのでしょうか。それは、神様が作られた条件のためです。男性の方が女性より苦勞が多い、という人もいますが、それは嘘です。女性は生まれた時から死ぬ時まで苦勞が多くて、苦勞に慣れてしまうのです。そして、苦勞しなければ良い女と言われたいのです。どの国へ行っても同じです。子どもを産むことについても同じです。

面白い話をしましょう。以前話したことがあるのですが、もう一度申しあげます。臨終の時、男性は自分に訪れる死を何とかして拒否しようとしています。何とかして生き残りたい、と思うのです。しかし女性の場合は、10人中10人、必ず自分に近づいている死を素直に受け入れます。普段は立派で、

勇気があるような姿を見せている男の人でも、司祭の目で見たら、臨終の時には焦っています。怖がっています。しかし、女性は本当に素直に受け入れます。しかも受け入れるまでの時間がとても速いのです。女性は、命をいただいてからずっと、いろいろな苦勞をしなければなりません。今は時代が変わって、女性の方が男性より楽です、という人もいるかもしれませんが、それは間違いです。女性はいろいろな不利な条件の中で生きてきたから、信仰的に自分の弱さを認め、絶対的なものを求めようとする心が男性より大きいのです。お年寄りも、今までは自分の力で生きてきたけれど、年をとって自分の弱さを認めなければならなくなります。だから、信仰的になるのです。

今日の福音を読んで思ったのは、「私たちが信仰の道をふさわしく歩むためには、イエス様のみ言葉に従わなければならない。」ということです。そして、今日の福音のみ言葉では、「捨てる練習の上手な人が信仰的になる。」と言っています。人間的な欲望がある限り、私たちはいろいろなものに縛られます。だから、捨てることの上手な人が、靈性的にも優れます。いつも何かのものに、何かの憎しみに縛られてしまうと、清い靈の世界に入ることはできないのです。もちろんこのように言いながら、私も他の教会に移る日のことを考えてみますと、荷物がたくさん増えているのを感じます。捨てるようとしても捨てるものの何倍も物が入って来ます。それをどのように捨てるのか、それも一つの宿題です。とにかく、私たちは全部捨てなければなりません。捨てることに対しても、女性とお年寄りが有利です。男の人は、握ります。自分が使わなくても握ってきたいのです。そういう傾向があるのを私も認めます。そういう意味で、女性や弱い立場だと思っていらっしゃる方々こそ、実は本当に福音的になりやすい条件であることを思い、感謝しましょう。

ありがとうございました。